

安全情報

～いかさま賭博詐欺多発注意喚起～

「自分の身は自分で守る。」をモットーにカンボジアライフを楽しく、良い思い出にさせていただくため、安全情報を提供させていただきます。

1 いかさま賭博詐欺とは？

東南アジア系男女(彼らの多くはフィリピン人やカンボジア人を名乗ることが多い)が、主にプノンペン市内の観光地や繁華街において、主に単独で観光をしている邦人旅行者に対して親しげに話し掛けて自宅に食事に誘った後に、いかさま賭博を持ちかけて、最終的に多額のお金を取るという被害がプノンペン市内で多発しています。

被害者は男女を問わず、又、2万ドルの被害に遭った方もいます。このいかさま賭博詐欺は東南アジア各国で20年以上も前から行われているもので、プノンペン市においても、2011年から急激に被害が増加しています。

2 いかさま賭博詐欺グループとは？

これらのいかさま賭博詐欺のグループはプノンペン市内に複数存在すると見られ、それぞれのグループでは、

- ① 被害者に声を掛ける役（女性が多いが、男女で声を掛けるケースもある。）
- ② 被害者にいかさま賭博の方法を教える役（自称カジノのディーラーが殆どである。）
- ③ いかさま賭博の相手方の富豪男性役（自称ブルネイ人が多い。）
- ④ 被害者をオートバイに乗せてATMがある場所や、携帯電話（主にiPhone）や宝石を売っている店（プノンペン市内のソリヤモールであることが多い。）に連れて行く役

といった役割分担が決められており、警察ではこれらのグループはフィリピン人を中心として組織されていると見えています。

3 いかさま賭博詐欺の発生件数

当館に対して邦人被害者から、2011年16件、2012年16件、2013年7件、昨年は18件のいかさま賭博詐欺の被害報告がありました。

これらの数字はあくまで当館が把握している被害件数ですので、実際の被害件数はこの数倍に上ると考えられます。

4 2014年中のいかさま賭博詐欺の発生件数（18件）の内訳

- (1) 男女別被害者数
 - 男性 9人
 - 女性 9人

- (2) 在留・短期渡航邦人別被害者数
 - 在留邦人 2人
 - 短期渡航邦人 16人
- (3) 発生地域別被害件数
 - プノンペン市 18件
- (4) 被害者が最初に被疑者に声を掛けられた場所
 - 独立記念塔前 2件
 - イオンモール内 2件
 - リバーサイド付近 1件
 - コーヒーショップ内 1件
 - スパ内 1件
 - セントラルマーケット内 1件
 - ソリヤモール内 2件
 - ワットプノン内 1件
 - 王宮の裏 1件
 - シハヌーク国王銅像前 1件
 - 薬局内 1件
 - 路上 4件
- (5) 国籍（自称）別被疑者数
 - フィリピン人 4人
 - カンボジア人 4人
 - インドネシア人 2人
 - マレーシア人 1人
 - 不明 7人
- (6) 被害額について
 - 最高被害額（18件中） 10,000ドル
 - 18人の被害者の平均被害額 2,850ドル

5 いかさま賭博詐欺の流れ

以下、実際にいかさま賭博詐欺の被害に遭った方の体験例をご紹介しますので、東南アジア系の男女がこのように親しげに話し掛けてきた場合、御注意ください。

- ① 被害者が、観光地や繁華街を1人で歩いていると、自称フィリピン人の女性が親しげに声を掛けてきます。(自宅での昼食に誘う為、お昼前に声を掛けることが多い。)
 - 女性「どこから来たの？」(日本人であることを確認している。)
 - 被害者「日本からです。」
 - 女性「いつ来たの？」(短期渡航者であることを確認している。)
 - 被害者「昨日到着したばかりです。」
 - 女性「私も日本に行ったことがあるわ。今度姪っ子が日本に行くのだけど、良かったら姪っ子に日本のことを聞かせてもらえないかしら？」

被害者「ええ。いいですよ。」

女性「じゃあ、お昼ご飯を一緒に食べながらにしましょう。私の家で食事をごちそうするわ。」



- ② この後、トゥクトゥク（三輪タクシー）やオートバイで女性宅へ移動しますが、その間、女性は運転手に指示をして、被害者に自宅の場所を覚えられないように複雑な道を通ったり、必要以上に被害者に話し掛けたりします。



- ③ 家に着くと姪っ子はおらず、代わりに、自称カジノのディーラーであるおじさんと称する男性がおり、3人で食事をした後に雑談をします。

おじさん「あなたはブラックジャックを知っているかい？」

被害者「ルールなら知っています。」

おじさん「じゃあ、あなたに絶対に勝てる方法も特別に教えてあげよう。私はプロのディーラーだから私の合図に従っていれば、あなたは必ず勝てるよ。」

被害者「なるほど。おじさんの合図に従えば良いのですね。」



- ④ 自称カジノのディーラーが被害者にかさま賭博のやり方を教えます。

おじさん「実は、今からブルネイ人の富豪がここに来ることになっているのだけど、彼はすごくケチで嫌な人間なのだよ。だから、今教えた方法で我々2人で彼をだましてして彼からお金を巻き上げよう。」

被害者「えっ、それはちょっと…。」

おじさん「大丈夫。私が教えた方法でやれば絶対勝てるから。」



- ⑤ ここでいきなり富豪が家に来て出口を押さえるため、被害者はカードゲーム賭博をやらざるを得ない雰囲気になり、仕方なくカードゲーム賭博に参加します。カードゲーム賭博は教わったとおりの方法で勝ち続けますが、最後のゲームで富豪役が大金（10,000ドルであることが多い。）を賭けてきます。

富豪「私はこれだけ賭けるのだから、あなたもちゃんと支払い能力があるかどうか現金を見せてほしい。」

被害者「こんなに多額の現金は今ありません。」

おじさん「我々は必ず勝てるからあなたもATMでお金を引き出してきてくれ。私も友人からお金を借りてくるから。」



- ⑥ この後、被害者はグループの仲間の男女にオートバイでATMのある場所に連れて行かれ、その間、クレジットカードの限度額を聞かれます。



- ⑦ ATMに到着後、彼らに限度額いっぱい金額をキャッシングするよう指示されます。キャッシングが出来なかった場合は、ショッピングモールの中の店に連れて行かれて、クレジットカードで宝石や高額の携帯電話を限度額一杯買われた後、

それを別の店で現金に換えさせられます。



⑧ 現金を準備した後に彼らの自宅に戻ります。

おじさん「申し訳ない。私はお金を準備できなかった。明日までに必ずお金を準備するからカードゲームは明日続きをやろう。担保としてお金を預けてくれ。絶対に勝てるから安心して欲しい。明日ホテルに迎えに行くから。」



被害者は言われたとおり彼らにお金を預けてホテル帰りますが、翌日には彼らと連絡が取れなくなり、いかさま賭博詐欺被害に遭ったことに気付きます。

6 いかさま賭博詐欺に遭わないために

- 見知らぬ者に声を掛けられても不用意に相手にしない。
- 言葉の異なる国で日本語を聞くと安心してしまいがちであるが、警戒心を常に持つことを忘れない。
- 間違っても自宅まで付いて行かない。

突然親しげに声を掛けて来た人物に対して安易に気を緩めたりせずに、常に警戒心を持っておくことが肝要です。自宅まで行ってしまうと巧妙にいかさま賭博への参加を強要され、逃げ出せなくなります。

途中でいかさま賭博詐欺に気づいて逃亡を図り、運良く無事に帰ることが出来た方もいますが、中には、相手の態度が急変して、暴行を受けて金品を強奪された方もいますので、自宅まで行ってしまうと抜け出すのは容易ではないことを認識して下さい。

いかさま賭博詐欺は、日本人特有の優しさと、はっきり断れない性格につけ込んだ巧妙な組織犯罪で、20年以上前から東南アジア各国で多数発生しているにも関わらず、被害数が一向に減っていません。

カンボジアを含む東南アジアにはこのような日本人を対象とした詐欺のグループがいるということを覚えているだけでも、被害を未然に防ぐことができますので、頭の片隅に留めておいてください。